

【女子#1】 対フランス 7月7日（火） 14：00～ 会場：Mestska Hala Jablonec

FRA	⎧	2-2 1	JPN
		3-4 1	
		5-2 3	
		0-1 6	

スタート：日本 ④島山、⑤広瀬、⑧畑口、⑩守田、⑬佐藤

<第1P>

フランス2-1-2ハーフコートゾーンディフェンスに対し、日本は2-2-1オールコートゾーンディフェンスで始まる。

フランスのオフェンス（ボール運び）の能力の低さにつけ込み、終始オールコートからのディフェンスで相手にプレッシャーをかけながら、ボールを支配することができた。しかし、初戦ということもあり緊張から思うようにパスが繋がらずシュートに結びつくことができない。単純なシュートミスが目立ち、場判断が悪い。強化合宿で取り組んだことをタイムアウトで確認する。5分過ぎにスタート5人を全員交代し、つねに相手にプレッシャーをかけ続け2-2 1で終了。

<第2P>

第1P同様にオールコートでのプレッシャーをかけ続け、さらに点差を広げる展開となった。点差の開きから、緊張がほぐれ動きの固さなくなってきたかと思いきや、ミスを連発することや、パスを出したら出しっぱなしで、仲間のサポートができなくなってきたため、「チーム」を意識するように伝え、5-6 2と前半を終える。

<第3P>

開始早々、オールコートからのプレッシャーに相手が翻弄し点を重ねることができた。全員が要所に味方にあわせたプレーが出始め、点を重ねた。しかし、緊張感のなさからイージーミスを誘い、相手のタイムアウトで再度やるべきことを確認した。結局10-8 4で終える。

<第4P>

相手の動きに疲労を感じ、ほぼ全員が得点をする事ができた。フランスの動きの遅さに日本があわせてしまい、スローインの際の攻防の切り替えが遅くなる傾向がさらに目立ち始めた。相手にあわせることが次のゲームに影響を与えないといいが、最終的に19対10 1で日本が初戦をものにすることができた。選手間のコミュニケーションの面で不安が残るゲームとなった。

株式会社東海理化チェコの社員の方の応援有り。

【女子#2】対メキシコ 7月9日(水) 14:00～ 会場:Mestska Hala Jablonec

	$\left. \begin{array}{l} 19 - 4 \\ 19 - 13 \\ 25 - 9 \\ 16 - 9 \end{array} \right\}$	
MEX		JPN
79		35
スタート: 日本		④島山、⑤広瀬、⑧畑口、⑪守田、⑬佐藤

<第1P>

日本は2-2-1オールコートゾーンディフェンスで始まる。開始早々#5のロングパスが#11に通じ得点を許す。#4、5、11が絶妙なパスの連携プレーを作り、リードを広げられる。日本はディフェンスのリズムを狂わされた影響から、パスの連携、ドリブル、シュートの単純なミスの連発で思うように加点できず、結局4-19で第1Pを終了。

<第2P>

オールコートでのディフェンスをノーマルの2-1-2ゾーンディフェンスに切り換え、ロングパスからの裏パスに備えた。しかし、#5からの絶妙なパスワークと強引なドライブにプレッシャーをかけ続けられた。また、セーフティの意識の低さから速攻を許す場面も見られる。走るチームが走られていることに選手が気づかず、後手に回る形が目立つ。

昨日同様、ミスを連発することや、パスを出したら出しっぱなしで、仲間のサポートができないことは大きな課題といえる。13-38と前半を終える。

<第3P>

開始早々、自分たちの単純ミスから速攻を許し、前半でのセーフティを意識することや、バウンズパスなど相手の手足の長さを意識したパスを判断して出すことができず、追加点を許してしまう。ベンチメンバーも試合の状況を確認しているはずなのに、コートに出ると同じミスをしてしまうため、メンバーの入れ替えも難しい状況になる。タイムアウトで再度やるべきことを確認した。結局26-63で終える。

<第4P>

重苦しい雰囲気のまま4Pが始まり、相手の得点を抑えることができて、追加点に結びつかなく、苦しい展開となる。#5、#11のコンビの早いパスワークについていくことができな。パスモーションで動き出しを早めることを意識させることによって、相手の得点も止まる。自分たちで声を出しながらコミュニケーションを図っていくことが難しいようで、お互いのパスの要求の伝達がかみ合わない。選手間のゲーム中のコミュニケーションの面で昨日同様不安が残るゲームとなった。

株式会社東海理化チェコの社員の方の応援有り。

【女子#3】 対ブラジル 7月10日(木) 11:15～ 会場: Mestska Hala Jablonec

BRA	46	1 2 - 1 2	JPN	53
		1 2 - 1 2		
		1 0 - 1 4		
		1 2 - 1 5		

スタート: 日本 ④畠山、⑤広瀬、⑧畑口、⑩守田、⑬佐藤

<第1P>

日本は2-2-1 オールコートゾーンディフェンスで始まる。

ブラジル#7の小柄ながらもスピードあるドリブルワークに困惑し、#7の動きについて行くことで精一杯で、ゾーンプレスがなかなか機能しない。#7にマンツーマン気味に付くことによって、ブラジルのオフenseが戸惑った。しかし、日本のオフenseにまたもやコミュニケーション不足の部分で、パスの連携でミスがあったり、単純なシュートミスの連発で追加点がのびない。シーソーゲームで、結局12-12で1P終了。

<第2P>

第1P同様に#7に山田がマンツーマン気味でつき、チャンスをとねらう。#7の右のドリブルを防ぐため、左サイドヘディレクションをかける。戸惑っているブラジルは外角からのシュートをねらうが、ボックスアウトの遅れや不徹底からリバウンドを奪われ、さらにファウルをとられる場面が目立つ。佐藤、畑口のセンターのファウルがかさみ苦しい展開。結局2Pも同点の24-24と前半を終える。

<第3P>

センター佐藤のポジションの確認ができてきたフォワード陣が要所にセンターを利用しながらオフenseのリズムを取り始め、チャンスが増えてきた。しかし、ここという場面で、キャッチミスからのターンオーバーや、パスを出すことによって自分の目の前を見失う場面もちらほら見られ、うまく攻撃のリズムに乗ることができない展開となった。守田の5ファウルが有り厳しい展開になる。それも、相手の#4, 6, 11のファウルが重なることによって助けられる。結局38-34で終える。

<第4P>

相手の動きに疲労を感じ、さらに気を引き締めてゲームがスタートした。畠山、畑口、佐藤がそれぞれ4ファウルと非常に苦しい展開。#4を山田がうまく攻撃を遅らせることができ、外角のシュートをさせることができた。リバウンドも相手に取られることが少なくなってきたため、オフenseチャンスが増えた。しかしながら、トラベリング、ノーマークのレイアップを簡単にはずすイージーミスが相変わらず多く、思うように加点できない。算分2分あたりからようやく連続ゴールができ、7点のリードを奪うことができた。相手の追加点もあったが、ゲームコントロールができ、無事53-46で勝利を収めた。

【女子#4】対オーストラリア 7月11(土) 14:30～ 会場:Mestska Hala Jablonec

AUS 73	23-8	JPN 32
	16-10	
	12-7	
	22-7	

スタート: 日本 ④島山、⑤広瀬、⑧畑口、⑪守田、⑬佐藤

<第1P>

オーストラリア1-2-2ハーフコートゾーンディフェンスに対し、日本は2-1-1-1オールコートゾーンディフェンスで始まる。

オーストラリア#10にボールが集まることから#5広瀬がマンツーマンについてプレッシャーをかける。オーストラリア#15の180cm級の大きさにゴール下をほぼ完璧に支配された状態となり、リバウンドはなかなかとれない。ボックスアウトの不徹底さもあるが、体格の違いと、体重の違いが大きく差をつけられる原因となった。オフェンスでは全くチャンスがないわけではなく、ガードからフォワードへの連携ミス、センターのシュートがほとんど頭上で阻止される状態の中、切り込んでシュートをねらうため阻止される。外角のシュートを積極的にねらっていくも追加点がのびず、8-23で1P終了。

<第2P>

第1P同様にオールコートでのプレッシャーをかけ続ける。ミスを連発することや、パスを出したら出しっぱなしの状態は依然続く。ボックスアウトも仕掛けるが頭上からボールを奪われるため、手の打ちようがない。かなりの力でボックスアウトを行い、さらにボックスアウトで押し下がらせないとリバウンドがとれない状態にあるにもかかわらず、シュートを打たれたらボールを見てしまうため、後手に回る。うまく切り込んで逆サイドにあわせ手シュートをねらい、フリースローを誘うがフリースローの確率が低い。結局、18-39と前半を終える。

<第3P>

センター陣に思うようにパスが入らず、1-2-2のゾーンを崩すことがなかなかできない。#5広瀬のパスワークの判断に迷いが多く、ちぐはぐな展開となる。センターの要求するところや、フォワードの考えていることの意味伝達が思うようにできず、練習不足を感じる。技術的な部分ではなく、コミュニケーション面でのところが大きく出ているように感じる。25-51で3Pを終える。

<第4P>

疲れの出てきたオーストラリアに果敢に仕掛けて速攻をねらう。しかしノーマークのシュートを落とすミスが続き得点が伸びない。キャッチをしない状態からのトリプルでのミスや、ボールミートをしないことで相手にカットされることや、Vカットなど基本的な部分をおろそかにすると必ずと言っていいほどミスが起こる。戦術どうのこうののではないことがここに来てクローズアップされてくる。「ファンダメンタル」の重要さが現れる。ミスの連発で得点を伸ばさ

どころか失点を伸ばすことに繋がった。しかし、4P残り4分ほどは、オーストラリアの攻撃を封じることができているので、あきらめずに戦う姿勢は評価するところである。

32-73で試合を終える。

株式会社東海理化チェコの社員の方の応援有り。おにぎり、即席みそ汁、チェコガラス細工おみやげをいただく。

株式会社ティラドチェコの社員の方の応援有り。ボールペンなどの差し入れいただく。

【女子#5】対オーストラリア 7月12(日) 11:15～ 会場:Mestska Hala Jablonec

AUS	54	19 - 3	JPN	30
		12 - 9		
		16 - 5		
		7 - 13		

スタート: 日本 ④畠山、⑤広瀬、⑦我謝、⑧畑口、⑩守田

※昨夜11:00頃、急遽日程変更となり、14:30開始が11:15開始となった。

<第1P>

オーストラリア1-2-2ハーフコートゾーンディフェンスに対し、日本はハーフのマンツーマンディフェンスで始まる。1線、2線、3線のポジショニングを悪さから、ヘルプディフェンスの対応が遅れる。3線がヘルプをすることを確認するが、体格の大きな選手がカットインされるとどうしてもひるむ。予想以上に相手に得点された。昨日のミーティングでローポスト、ショートコーナー、ハイポストの連携をすることを確認したが、頭の中では理解できているようだが、体重のある相手になるとなかなか意識を持続しない。結局19-3で1P終了。

<第2P>

1Pでのマンツーマンでの戸惑いも徐々になくなり、ディフェンス的には上々のでき。センターのディフェンスの前回りが相手の体格の大きさからなかなか前に出ることに苦むが、相手も日本のしつこさに困惑し、いらだち始める。日本はこのチャンスを生かせず、トラベリングや、キャッチミス、パスミスなどで自滅し追加点が伸びず、31-12で2P終了。

<第3P>

オーストラリアのラフプレーが目立ち始めるも、判定は続行。体格で負けている日本にとっては非常に苦しいところである。いわゆるやられ損状態にもかかわらず、果敢に立ち向かっていくもなかなか点に結びつかない。フリースローの確率も悪く、苦しい展開。47-17で3P終了。

<第4P>

不調の畑口によりやく3Pシュートが決まりリズムに乗れそうになってくる。広瀬の速攻もきまり、ようやく日本のリズムになる。しかし、佐藤のファウル続きいい流れが長続きしないのが痛い。4Pだけでは7-13とリードできる力は持っているので、自滅ムードさえなければこれぐらいの戦いのできるのでは、非常に残念である。結局54-30で3・4位決定戦に回ることとなった。

株式会社東海理化チェコの社員の方の応援有り。チョコレートの差し入れを頂く。

※ 日程変更のため株式会社ティラドチェコの方への連絡が付かず、14:00ごろ試合観戦に来られた。衛藤コーチが状況説明の対応

【女子#6】対ブラジル 7月13(日) 9:30～ 会場: Mestska Hala Jablonec

BRA 27	19 - 3	JPN 99
	12 - 9	
	16 - 5	
	7 - 13	

スタート: 日本 ④畠山、⑤広瀬、⑧畑口、⑩守田、⑬佐藤

<第1P>

ブラジルハーフコートディフェンスに対し、日本はハーフのマンツーマンディフェンスで始まる。ブラジル#7怪我のため出場できないことから、終始日本ペースで試合をすすめることができた。速攻のレイアップが不安であった広瀬の速攻から不安が一気に払拭され、広瀬の4連続シュートで波に乗る。マンツーマンでのポジショニングも全員が確認でき、5分過ぎ、全員交代で全員で波に乗る。結局相手に得点を許すことなく1Pを28-0で終了。

<第2P>

山田、我謝、神田、森下、加藤のスタート。2線3線のポジショニングの悪さからヘルプリカバリーが遅れ、得点を許す。チャンスを作るも山田のレイアップが落ち、神田のパスミスとミスが続く。2P 15-11 43-11で終了

<第3P>

畠山、広瀬、畑口、守田、佐藤でスタート。さらに引き離しにかかる。広瀬、佐藤を中心に、全員が得点に絡む。3P 31-2 74-13で終了。

<第4P>

山田、我謝、神田、森下、加藤のスタートで100点を目標にがんばろうと、さらに引き離しにかかる。しかし、ミスが続きゲームの出だしが悪すぎる。出だしの3分ノー得点でブラジルに4連続ゴールを許しタイムアウトで気持ちを引き締める。畠山、広瀬、畑口、守田、佐藤に交代し、嫌なムードを断ち切ることに成功広瀬、畑口のゴールでさらに点差を広げる。山田、我謝、神田、森下、加藤に交代し森下の待望の3Pシュートで99点目。100点まであと少しのところまでタイムアップ。99-27で3位決定戦をものにし、待望のメダルを獲得することができた。

株式会社東海理化チェコの社員の方の応援有り。